

後藤　翔子
平政会

こどもまんなか交流施設候補地再検討は

問 **施設整備候補地である子ども館東側のエリアは津波浸水区域に指定されているが、候補地として必要な条件を満たす場所が他にある場合、改めて比較及び検討する余地はあるか。**

答 これまでのプロセスにおいて、様々な観点からの比較検討と検証により整備候補地を決定しており、現段階では、他の候補地との比較及び検討する余地はないものと認識しているが、今後のさらなる議論の過程において、仮に他の候補地との比較及び検討するに至った場合、改めて議会に説明し、理解を得られるよう努めたい。

若者や女性に選ばれる職場づくり

問 **くるみん認定企業が現在能代市内に存在しないことが、本市の若者や女性の就職にどのような影響があると考えるか。**

答 仕事と子育てを両立しやすい職場環境を整えることは、企業の魅力を高める上でも重要であり、人材の確保・定着にも影響を及ぼしていると考えている。このため、くるみん認定取得も含め、仕事と子育てが両立でき、働きやすい職場環境をつくるための支援について検討していく。

その他の質問事項
- ○避難対策検証結果は市民に説明できるか
- ○くるみん認定による企業への優遇措置は
- ○市民意識調査設問の専門家からの助言は



菊池　妙子
公明党

病児保育と保育園等の緊急時の人材確保

問 **病児保育の保育士が急病等で突発的に休まざるを得なくなった際、保育士がいないため利用者はいるが開設できない。滞在保育士を把握し、緊急時の保育士バンクを創設する考えは。**

答 病児保育は必要性の高いサービスである一方、看護師や保育士の確保が課題となっている。県では保育士・保育所支援センターを設置し、求人案内や就職あっせん、再就職支援研修等を実施し、市も就労奨励金等で人材確保に努めている。保育士バンクの創設は、関係医療機関の意見を丁寧に聴きながら、慎重に見極めていく必要があると考えている。

高齢者のRSウイルスワクチン接種

問 **高齢者のRSウイルス感染症は入院した場合長期入院の傾向にあり、持病のある方は命に関わる危険性がある。抗ウイルス薬はないため、予防接種しかない。費用を助成する考えは。**

答 RSウイルスは、高齢者や免疫不全、肺疾患等のリスク因子を有する方では、重篤な下気道炎を発症することがある。今後、国においてワクチンの定期接種化に向けた議論が進められると考えており、その動向やワクチンの効果等の情報を注視しながら、助成の必要性を検討していきたい。

その他の質問事項
- ○保育士バンクを保育園等にも活用を
- ○保護者が安心して看病できる社会に
- ○のしろ子育て・看病応援宣言等



菊地　時子
日本共産党

全ての避難所に冷暖房設備の整備を

問 **全ての地域センターには冷暖房が整備されているが、小・中学校の体育館には冷房設備がない。災害が激甚化、頻発化する中で、実効性ある計画見直しとして、全ての避難所に冷暖房設備の整備を。**

答 災害時の避難者の健康と安全・安心な生活環境の確保は重要な課題と認識している。令和5年7月の大雨災害を踏まえ、全地域センターへの冷房設置や自治会館への冷房設置補助など、避難環境の向上を進めてきた。避難所の冷暖房設備については、構造や停電時の電源、コスト等を踏まえ、今後の課題として慎重に検討している。

こどもまんなか交流施設整備

問 **子育て支援施設について防災の観点を重視としているが、津波のリスクについて避難ルートの検討やマニュアルの整備を示すことが一番大事である。施設整備の前に災害時対策をしっかり示すべき。**

答 候補地での整備における安全性の確保について、議員から様々な意見をいただいたことを踏まえ、事業内容を見直すため、再度検討することとした。災害時の対策についても、避難ルートやマニュアル等を含め、その中で十分に検討し、適宜示していきたいと考えている。

その他の質問事項
- ○加齢性難聴者の補聴器購入費補助実施を